

■交読 詩篇46篇1～11節

- 1 神は われらの避け所 また力。
苦しむとき そこにある強き助け。
- 2 それゆえ われらは恐れぬ。
たとえ地が変わり
山々が揺れ 海のただ中に移るとも。
- 3 たとえその水が立ち騒ぎ 泡立（あわだ）っても
その水かさが増し 山々が揺れ動いても。
- 4 川がある。その豊かな流れは 神の都を喜ばせる。
いと高き方のおられる その聖なる所を。
- 5 神はそのただ中におられ その都は揺るがない。
神は朝明けまでに これを助けられる。
- 6 国々は立ち騒ぎ 諸方（しよほう）の王国は揺らぐ。
神が御声（みこえ）を発せられると 地は溶（と）ける。
- 7 万軍の主はわれらとともにおられる。
ヤコブの神はわれらの砦（とりで）である。
- 8 来て 見よ。主のみわざを。
主は地で恐るべきことをなされた。
- 9 主は 地の果てまでも戦いをやめさせる。
弓をへし折り 槍を断ち切り
戦車を火で焼かれる。
- 10 「やめよ。知れ。わたしこそ神。
わたしは国々の間であがめられ
地の上であがめられる。」
- 11 万軍の主はわれらとともにおられる。
ヤコブの神はわれらの砦（とりで）である。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 詩篇84篇1～12節

- 1 万軍の主よ あなたの住まいは
なんと慕わしいことでしょう。
- 2 私のたましいは 主の大庭（おおにわ）を恋い慕って
絶え入るばかりです。
私の心も身も 生ける神に喜びの歌を歌います。
- 3 雀（すずめ）さえも 住みかを 燕（つばめ）も ひなを入れる巢を
あなたの祭壇のところに得ます。
万軍の主 私の王 私の神よ。
- 4 なんと幸いなことでしょう。
あなたの家に住む人たちは。
彼らはいつも あなたをほめたたえています。
- 5 なんと幸いなことでしょう。
その力があなたにあり
心の中に シオンへの大路（おおじ）のある人は。
- 6 彼らは涙の谷を過ぎるときも
そこを泉の湧く所とします。
初めの雨も そこを大いなる祝福でおおいます。
- 7 彼らは力から力へと進み
シオンで神の御前（みまえ）に現れます。
- 8 万軍の神 主よ
私の祈りを聞いてください。
ヤコブの神よ 耳を傾けてください。
- 9 神よ われらの盾をご覧ください。
あなたに油注がれた者の顔に
目を留めてください。
- 10 まことに あなたの大庭（おおにわ）にいる一日は
千日にまさります。
私は悪の天幕に住むよりは
私の神の家の門口（かどぐち）に立ちたいのです。
- 11 まことに 神である主は太陽 また盾。
主は恵みと栄光を与え
誠実に歩む者に良いものを拒まれません。
- 12 万軍の主よ
なんと幸いなことでしょう。
あなたに信頼する人は。

■聖歌651「罪 咎をにのう」(1, 2節)

- ①罪 咎をにのう 友なるイエスに 打ち明けうるとは いかなるさちぞ
やすきのなきもの 悩み負うもの 友なるイエスをば 訪れよかし
- ②試みのあした 泣きあかす夜 気おちせずすべて 打ち明けまつれ
われらの弱きを 知れる君のみ われらの涙の もとをよみたもう

■頌栄 聖歌376「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず
御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

【自宅での礼拝の手引き】 インターネット配信に対応できない方は、
下記を参考にしてください。声を出して行いましょう。

- ・招詞 招詞を読みます
- ・賛美 歌います
- ・主の祈り 主の祈りを祈ります
- ・交読 交読箇所を読みます
- ・礼拝祈祷 次の言葉を祈りましょう
「天の父なる神様。今、あなたの御前で礼拝をささげられることを感謝します。兄弟姉妹と場所は異なりますが、心を一つにして礼拝をささげます。主の臨在を、今、ここに現してください。私たちの救い主、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン」
- ・使徒信条 使徒信条を告白します
- ・聖書朗読 聖書朗読箇所を読みます
- ・説教 聖書朗読箇所を思い巡らしましょう
- ・賛美 歌います
- ・献金 主から受けたものの中で私がささげられるものや分かち合えるものは何か思い巡らしましょう。それをささげながら歩めるように主の助けを祈りましょう。
- ・頌栄 頌栄をささげます
- ・祝祷 心の中で祝祷を読み、最後に「アーメン」と告白しましょう
「願わくば 主イエス・キリストの恵み 父なる神の愛 聖霊の親しい交わりが教会員一同の上に とこしえにありますように アーメン」